

日本とロシアとの間では、昭和59年(1984年)12月に成立した「地先沖合漁業協定」に基づき、毎年、操業条件について日ロ漁業委員会が決定し、相手国200海里水域内に入漁しています。

平成22年12月の日ロ漁業委員会第27回会議では、ロシア国内の漁業制度が自国水産業の育成を重視する方向に見直され、資源管理が一層強化されている中で厳しい交渉でありましたが、最終的に前年数量より590トンの減の5万1千355トンの漁獲割当量を確保しています。

### (1) 平成23年(2011年)の合意内容

#### ① ロシア200海里水域における日本漁船の操業条件等

##### ア. 相互入漁

- 総漁獲割当量 51,355トン (平成22年:51,945トン)
- 総隻数 546隻 (平成22年:546隻)

##### イ. 有償入漁

- 総漁獲割当量 5,098トン (平成22年:5,064トン)
- 入漁料 2億722万円 (平成22年:2億722万円)
- 総隻数 45隻 (平成22年:45隻)

##### ウ. 追加協議

- 西ベーリング水域で追加割当が生じた場合、日本漁船への配分を最優先に協議。

<主な魚種別の漁獲割当量>

(単位:トン)

魚種	平成22年(2010年)		平成23年(2011年)	
	相互入漁	有償入漁	相互入漁	有償入漁
スケトウダラ	4,752	3,000	4,752	3,000
マダラ	537	190	537	190
サンマ	35,500	-	35,850	-
イカ	9,187	760	8,390	760
その他	1,969	1,114	1,826	1,148
計	51,945	5,064	51,355	5,098
	57,009		56,453	

#### ② 日本200海里水域におけるロシア漁船の操業条件等

##### ア. 相互入漁

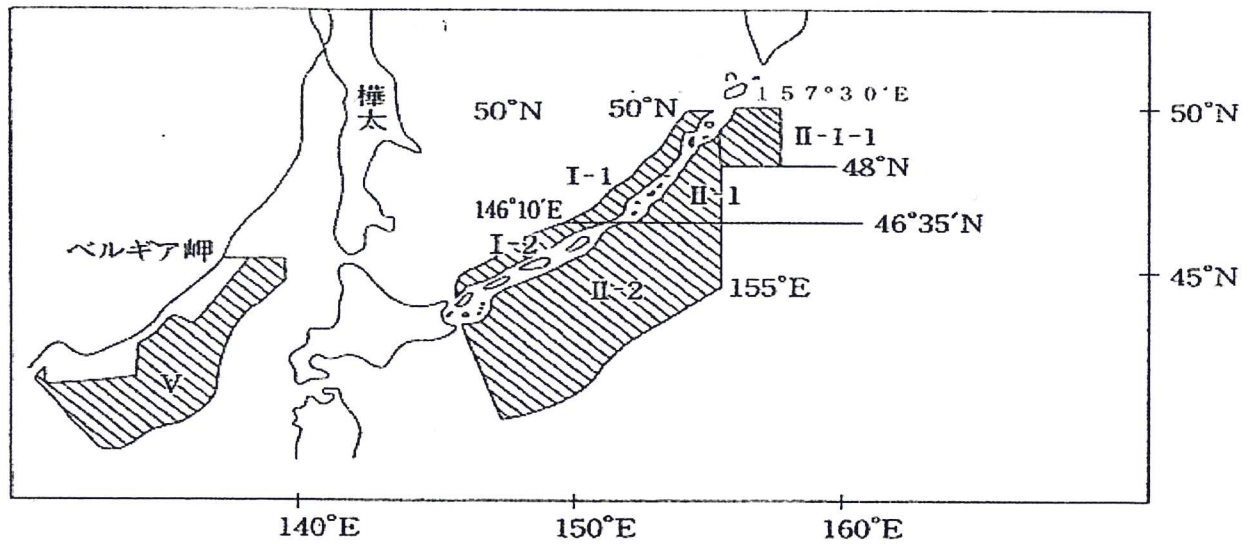
- 総漁獲割当量 51,355トン(平成22年51,945トン)
- 総隻数 101隻(平成22年101隻)

<主な魚種別の漁獲割当量>

(単位:トン)

魚種	平成22年(2010年)	平成23年(2011年)
イワシ・サバ	11,692	10,752
イトヒキダラ	27,800	27,800
サンマ	12,453	12,803
その他	-	-
計	51,945	51,355

(2) 日口地先沖合漁業交渉操業海域図



■ 相互入漁水域		
I-1区	千島 (オホーツク海側北)	底はえ縄
I-2区	千島 (オホーツク海側南)	底はえ縄
II-1区	千島 (太平洋側北)	中層トロール、底はえ縄、棒受網
II-1-1区	千島 (太平洋側北)	中層トロール、着底トロール、底はえ縄
II-2区	千島 (太平洋側南)	底はえ縄、棒受網
V区	日本海	いか釣り
■ 有償入漁水域		
II-2区	千島 (太平洋側南)	着底トロール、中層トロール

[資料：北海道水産林務部漁業指導課]

